

## 全トヨタ労連



谷口 代議員

国際活動長期ビジョン・男女共同参画推進・WIN-WIN最適循環運動等、中長期かつ横断的なテーマに対し、これまでも論議に参画しあるべき姿は共有してきた。この先は、職場実態から見えてくる課題に対する地道な活動が重要と認識しており、全トヨタ労連として役割を果たしていく。

各労連が抱えている、自動車総連としてのアクションが無ければ前進・解決しない課題に対して、職場実態などを踏まえた着実な取り組みをお願いしたい。我々の成果を最前線の組合員に感じて頂ける取り組みを目指したい。

## 全本田労連



遠藤 代議員

日本国内は人口・生産年齢人口減少により自動車メーカー各社は海外市場へ経営資源を集中させ、競争環境はさらに激化している。多国籍企業においては、グローバル経営対策の視点が必要であり、多国籍企業労組ネットワーク構築や建設的な労使関係構築への働きかけが重要となってきた。

自動車総連の国際連帯活動に参画することによって理解者を増やし、新たな発想で次の時代を自らの手で切り開いていく意気込みで共に運動を進めていく。

## 三菱自動車ふそう労連



上原 代議員

経営対策活動として、今回の燃費試験不正問題を踏まえ、従来以上に職場や組合員の声を細かく吸い上げ、その内容を精査し労働組合として経営側に対し建議を行い、経営に対するチェック機能を強化していく。

安全衛生活動に関しては、労働災害ゼロに向け、職場の組合員を巻き込んだ取り組みを従来以上に推進していき、職場の安全衛生活動を強化する。

## 日産労連



中村 代議員

第6回組織強化活動では、「意義ある勝利」をつかみとるとの基本方針のもと12労連が心をひとつに結集し活動を進めた結果として勝利を果たしたことは、今後の自動車総連の組織力強化につながったものと確信する。

これから3年間の集中的な運動として展開する「WIN-WIN最適循環運動」においても培われ強化された組織力を活かして「運動化」し、成果を導き出したい。

更には、自動車総連、各労連、単組が一体となって「1,000万連合実現プラン」に対する役割を果たしていきたい。

## 全国マツダ労連



戸村 代議員

男女共同参画の推進について、男女という括りだけでなく、全ての組合員が組合活動に積極的に参画し、マツダに関わる企業で働く女性組合員が生き活きと働くことができ、その中から女性組合役員が誕生していく継続性のある自然な環境作りを、この1年をかけて推進計画を策定していく。

自動車総連には自分らしく働ける職場作りに向け、政策制度によるアプローチや自動車産業台での労働諸条件の改善、積極的な取り組みをお願いする。

## スズキ労連



鈴木 代議員

燃費測定の不正や労災など「安全・安心」を取り巻く情勢は大変厳しい。グループの信頼回復、また「安全はすべてに優先する」ということの徹底を図っていく。

WIN-WIN最適循環運動や国際活動ビジョン、男女共同参画など新たに掲げた運動方針を、自動車総連本部の正確な情報発信を元に推進し、組合員の確実な行動につなげていく。

## ダイハツ労連



溝口 代議員

安全衛生について、安全で快適な職場環境は労使が実現・継続させていくものと認識している。

男女共同参画の推進については、参画意識を保ちつつ、労連として男女が共に働きやすい環境づくりを目指していく。

ダイハツ労連として第24回参議院議員選挙で組織強化の重要性を再認識し、次期選挙では大きな成果となるよう進め、個々の役割を全うし運動を推進していく。

## 富士労連



川又 代議員

第6回組織強化活動で、組合役員が組合員と丁寧に対話をする事の難しさとその重要性を改めて認識した。対話は労働運動の基本であり、出来るようになるまで粘り強く、繰り返し取り組むことが大切である。

運動方針推進のためには、地協活動と労連活動を両輪として連動させることが活動の加速につながると捉えている。自動車総連には地協活動がうまく進むようサポートをお願いする。

## 全いすゞ労連



堀越 代議員

第26期運動方針では、特にWIN-WIN最適循環運動について、メーカー、車体・部品、販売、輸送、一般のそれぞれの業種が抱える諸課題を的確に把握し、強い

リーダーシップを発揮し活動を推進していただきたい。

自動車総連が社会的な影響力を発揮するための第5次組織拡大中期計画に基づき全いすゞ労連としての目標達成を目指す。また、男女共同参画の推進についても、力強く参画していく。

## 日野労連



小松 代議員

組織拡大は、販売を中心とする未組織企業へのアプローチを継続中で、引き続きのサポートをお願いしたい。また、労連内では労働条件格差の改善が課題である。

自動車総連には引き続き、WIN-WIN最適循環運動について経営者団体や業界団体への理解促進を展開し、広く産業内に浸透させることで、社会的なうねりに導いて頂きたい。

日野労連として、各労使の懇談や協議を通じ、労連・単組における具体的な活動を検討しながら、労働条件格差の是正につなげていきたい。

## ヤマハ労連



太田 代議員

二輪車の税負担軽減をはじめ、政策課題の改善に政治の力が必要と考える。組合員に政治活動の重要性を理解・浸透し、主体的に参加できる風土を醸成させていく。

今期は、産業の底上げ・底支えを図る取り組み、男女共同参画推進計画の実践などが重点項目として設定されている。自動車総連には、産業別組合としての機能・役割を十二分に発揮し、積極的な取り組みを期待するとともに、具体的な運動の推進にあたり、十分な論議と、労連・単組に対する必要なサポートをお願いしたい。

## 部品労連



小野 代議員

ドイツで金型は「金型は生産工学の王」と例えられているように熟練技術の結晶であり、日本のモノづくりを象徴する製造業の一角である。しかし経済環境の変化から、中小企業の多い金型産業は海外への技術流出や若手人材への技術継承等の課題から、日本から金型産業が後戻り出来ない程、衰退していく事を危惧する。

「設備・金型分科会」での論議を通じ、「WIN-WIN最適循環運動」の精神である「産業全体での底上げ・底支え」を図っていきたい。